

Hondaの交通安全情報紙



Since 1971



Safety for Everyone

Hondaはすべての人の交通安全を願い活動しています。

●編集室：本田技研工業株式会社 安全運転普及本部
〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1
TEL 03(5412)1736
http://www.honda.co.jp/safetyinfo/

●編集人：吉田宏樹

※年間購読をご希望の方は、下記までお問合わせください。
(株)アストクリエイティブ 安全運転普及本部係
TEL 03(5439)1191 E-mail:sj-mail@spirit.honda.co.jp



SJホームページは

CONTENTS

- 特集①：小・中学生への自転車教育
児童・生徒が自ら考え、行動できる自転車教育のあり方……①
- 特集②：シリーズ・高齢者への交通安全教育 第2回 自転車利用者編
運転免許を保有していない高齢者への自転車教育を……②
- 現場訪問/東京ガス(株)……④
- NEWS REVIEW①/関東二輪車協会……④
- NEWS REVIEW②/第46回二輪車安全運転全国大会……④
- 教育最前線/(株)ドミノ・ピザ ジャパン……⑤
- TOPICS①/親子交通安全教室……⑤
- TOPICS②/三重県四日市市……⑤
- STREAM/全国に広がるHondaの高校生交通安全教育活動 第2回……⑥
- 危険予測トレーニング(KYT)/駐車場の出入口を通過する時(自転車編)……⑦
- 指導者ファイル 第15回/高松市交通安全指導員の皆さん……⑦
- SJクイズ……⑦
- DOCUMENT EYE ②/雨天時に走行している自転車を観察する……⑧

特集①：小・中学生への自転車教育

児童・生徒が自ら考え、行動できる自転車教育のあり方



藤枝市立瀬戸谷中学校の松永雅教諭による交通安全の授業。Hondaの危険予測トレーニングDVDの中にある交通場面の動画をモニターに映し、どのような危険があるか考えてもらう

平成24年の交通事故死傷者数を状態別・年齢層別にみると、自転車乗用中が占める割合は小学生

年代では年齢が上がるにつれ高くなる。そして、中学生年代にあたる13～15歳では全死傷者の67.0%が自転車乗用中となっている。小・中学生の自転車事故を防止するためには、発達段階に応じた教育が必要である。今回は教師や交通指導員による小・中学生への教育事例を紹介する。

静岡県にある藤枝市立瀬戸谷中学校では、全校生徒43名のほとんどが自転車通勤している。6月18日、同校で全校生徒を対象にした交通安全の授業が行われた。指導は同校の松永雅教諭と、静岡県交通安全協会藤枝地区支部交通安全指導員の寺尾京子さんと杉山瑠梨さんが担当。この授業は公開授業となっており、藤枝市内の小・中学校の先生方25名も見学に来た。

危険予測トレーニングを活用した交通安全の授業

松永教諭が「『胸騒ぎ』や『虫の知らせ』という言葉があるように、人間には危険を察知する力が備わっています。今日は皆さんが持つ、その力をトレーニング

グしたいと思います」と授業の趣旨を生徒に説明。そして、大型のモニターに注目してもらった。教材として使うのは、Hondaの危険予測トレーニング(KYT)DVD(下記参照)。モニターには自転車が住宅街を走行している動画が映し出される。そして、自転車が一時停止せずに、信号のない交差点を左に曲がるようにする場面が映像がストップ。「この後、自転車はどうなると思いますか?」と松永教諭が問いかけ、生徒たちは用意されたプリントに各自が予測した内容を記入していく。その後、7つの班に分かれ、班ごとに意見をまとめて発表。「右側から来るクルマにひかれる」「歩行者とぶつかる」などの意見が出された。松永教諭がストップした映像の続きを流すと、多くの生徒が予測したように自転車は右側の塀の陰から出てきたクルマとぶつかりそうになった。

続いて、交通安全指導員の杉山瑠梨さんが解説を行う。「先生が止めた場面で観るのは右側で立ち話をしている歩行者と、正面にいるクルマです。でも、よく観るとカーブミラーにクルマが映っています。塀の陰にクルマがいることがわかれば、事故に遭わないように対応できるはず。ただし、カーブミラーにクルマが映っていない場合は、止まらなくていいということはありません。見通しが悪い場所では必ず止まって、その後、右左右をよく観てから通過しましょう。次は歩行者の多い歩道を自転車が行き交っている場面。自転車が歩行者の間を通過しようとするところで映像が止まる。同じようにどのような危険があるか生徒が考え、発表する。「歩道は歩行者のた



各自が自分の考えをプリントに記入した後、班ごとにホワイトボードに意見をまとめて発表

め場所であることを忘れないでください。歩行者が次にどのような動きをするか考えながら進むことが大切です。万一、歩行者が自分の前に飛び出してきても、安全に止まれるようスピードは控えましょう」と杉山さんは歩道を進む時の注意点を伝えた。

最後に、松永教諭は中学校周辺にある見通しの悪い場所の写真を生徒に提示。「皆さんの通学路にも危険と思われる場所があります。自転車の事故で最も多い法令違反は安全不確認です。少しでも危険を感じたら止まりましょう。そして、周囲をよく観てから進んでください。それが自分の命を守り、相手を傷つけないということになります」と50分間の授業を締めくくった。



静岡県交通安全協会藤枝地区支部交通安全指導員の杉山瑠梨さんが事故防止のポイントを解説

●危険予測トレーニングDVD

四輪車、二輪車、自転車、歩行者の 카테고리ごとに動画で再現された交通場面のケーススタディ計25場面が収められており、免許を持たない学生や高齢者の方でも事故防止のポイントが学べる内容になっている。

価格：3780円(税込)
企画・制作：本田技研工業(株) 安全運転普及本部 (株)JAF MATE社



※詳しくは以下のホームページを参照
<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/kyt/training/>

特集①:小・中学生への自転車教育

自分の命を自分で守る力を身につけてもらう

瀬戸谷中学校では毎年4月に静岡県交通安全協会藤枝地区支部交通安全指導員による交通安全教室が開催されている。松永教諭はこれに加え、生徒の判断力や思考力を重視した指導を模索していたという。「そうした時に、ホンダのホームページで危険予測トレーニングDVDを知りました。これを授業に取り入れることで、生徒の危険予測能力を高められるのではないかと考えたわけです」。

松永教諭は授業の冒頭で、危険予測能力は特別なものではなく、誰にも備わっているものであることを生徒に印象づけています。「昔に比べると社会全体が安全になっていきますし、家庭で保護者も子どもがケガをしないように常に気を配っています。そうした環境の中で育ってきたため、生徒の



コースを走る前に、ヘルメットを着用し、自転車を自分の身体に合わせておく必要があることを説明

最初は1年生と4年生がいつしよに、指導員の濱本知代さんの講話を聞く。同校の校庭には、白線で模擬の歩道や車道、横断歩道、交差点が設けられている。濱本さんはそれを使って、児童に歩行者が歩く位置、自転車が走る位置を説明する。「クルマは左側通行です。自転車はクルマの仲間。だから車道の左側端を歩くことになり。ただし、皆さん小学生は歩道も歩くことができます。歩道には歩行者がいますか

危険予測能力は低下しているように感じます。もともと人間が持っている能力の1つなのだから、その存在に気づいてほしいと思います」。

同校の小林彰校長は「自分の命を自分で守る力を生徒に身につけてもらうことが、これからの安全教育のポイントです。これは危険を予測し、危険を回避する力を育成することもあります。今回の交通安全の授業も、そうした点を意識した内容にしました。交通安全指導員の方々の協力もあり、生徒に効果的な指導ができたと思います」と語った。

基本的なルールを実技を通じて学ぶ

一方、小学生に対しては、自転車の正しい乗り方と基本的な交通ルールを伝え、それを実践して身につけてもらう教育が重要である。神戸市では、市の男性交通指導員と兵庫県交通安全協会の女性交通指導員が市内の小



一時停止せずに飛び出すとどうなるか、出会い頭事故を再現

ら、車道寄りをつくり走ってください。続いて「止まれ」の標識を児童に示す。「これは周りがよく観えない場所にある標識です。そういう場所では必ず止まってください」と濱本さん。実際に「止まれ」の標識のある場所で止まらなかった時にどうなるのか、クルマ対自転車の出会い頭事故を再現した。

自転車は車両であることを理解してもらう

休憩をはさんで4年生は自転車教育、1年生は歩行者教育となる。自転車教育では児童全員が自転車に乗り、実技指導が行われる。まず、自転車を自分の身体に合わせるから。膝が軽く伸びて、かかどが浮く状態になるようにサドルの高さを調整する。次に、ブレーキ、タイヤ、ライト、反射材、ベルを点検。そして、児童の代表2名に自転車で乗ってもらい、濱本さんが乗車の仕方や構えなどを説明する。「自転車に乗る前に必ずヘルメットをかぶってください。乗車する時は左側から。停車中は左足を地面に着けて、右足はペダルをこぎ出せる位置におきましよう。ブレーキをかける時は左側の後ブレーキでスピードを落とすから、右側の前ブレーキをかけて止まってください」。



一時停止の標識のある場所では必ず停止線の手前で止まるように指導



コースの途中の交差点などでは児童が立ち、注意を呼びかける

の標識がある交差点では、濱本さんから交通安全指導員が停止線の手前で停止して、左右の安全確認をするよう伝える。さらに他の交差点や横断歩道にも児童が立って、走行している児童に声をかけている。これは順番を待つ児童や、走行が終わった児童にも参加してもらおうとねらいだ。他の児童の走り方を観察して、もし安全確認が不十分だったら、立っている児童が注意を呼びかけるのである。全員の体験走行終了後、濱本さんが「ブレーキを使わずに足を出して自転車を止めている人がいました。これは安全に止まれないだけでなく、バランスを崩して転倒する危険があるのでやめましよう。ブレーキを正しく使えるように練習ましよう」とアドバイスし、交

交通安全教室は終了した。小部小学校の藤田操校長は「自転車は車両であり、自転車に乗れば交通弱者ではなくなるということを児童も感じてくれたはず。交通安全指導員の方々が児童一人ひとりの運転に合わせてアドバイしていた点も良かったと思います。担任の先生方にも参加してもらったので、交通安全については学校生活の中でも繰り返し指導していきたいと考えています」と話す。



横断歩道では歩行者保護をしなければいけないことを学ぶ

自転車シミュレーターで子どもの危険予測能力の向上を図る

5月12日、山形市総合スポーツセンター（山形県山形市）で山形羽陽ライオンズクラブと山形地区安全運転管理者協議会が主催する「親子でスマートドライバー&交通教室」が開催された。会場には山貴ドライビングカレッジ（山形県天童市）が所有するHonda自転車シミュレーターが設置され、参加した小学生23名に体験してもらいながら、同カレッジの教習指導員が自転車の安全な乗り方を指導した。自転車シミュレーターは、自転車を運転する際に起こりうる危険を安全に体験することができる。主催者はシミュレーターの体験を通じて、自転車を安全に利用してもらうとともに、クルマや歩行者との関わりを子どもたちに考えてもらうことがねらいであるという。



特集② シリーズ・高齢者への交通安全教育 第2回 自転車利用者編

※ 運転免許を保有していない高齢者への自転車教育を

平成24年の自転車乗用中の交通事故死傷者数を年齢層別にみると、高齢者(65歳以上)が占める割合は17.6%。しかし、死者数だけに限ってみると、高齢者は64.7%を占めている。このように、高齢の自転車利用者が事故に遭うと死亡事故につながりやすい。シリーズ第2回は高齢の自転車利用者への指導の参考となる情報を紹介する。 ※四輪・二輪(原付含む)の運転免許

公益財団法人 国際交通安全学会では昨年3月に「子どもから高齢者までの自転車利用者の心理行動特性を踏まえた安全対策の研究」についての報告書をまとめた。プロジェクトリーダーを務めた帝塚山大学心理学部の蓮花一己教授は、この研究の中で実施した高齢の自転車利用者に対する行動特性の観察調査結果に基づいて、高齢者への自転車教育のあり方を提言している。

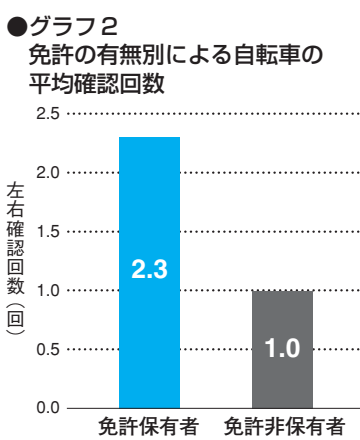
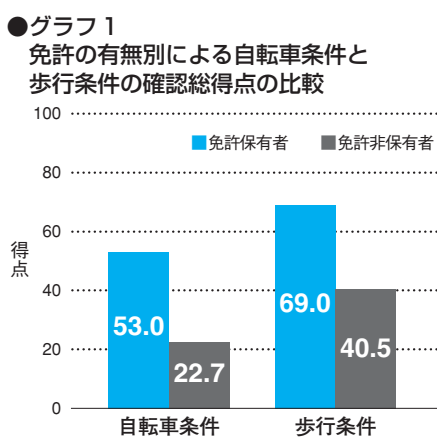
免許保有者と非保有者の安全行動の違いは何か

「先行研究で、運転免許を保有していない高齢者は保有している高齢者に比べ、はるかに事故に遭いやすいことが指摘されています。そこで、自転車乗用中における免許保有者と非保有者の行動がどのように違うのかを比較検証しようと考えたわけです」と蓮花教授は調査の目的を話す。調査は、奈良県にある自動車教習所のコースで、62〜94歳(平均年齢72・6歳)の高齢者48名(免許保有者21名・非保有者27名)が参加して行われた。参加者はジャイロセンサを取り付けたヘルメットを着用し、自転車で指定されたコースを走行。さらに、同じコースを参加者に歩いてもらう。コースの途中の交差点など8カ所に測定箇所を設け、参加者の自転車条件と歩行条件それぞれの安全確認行動(交差点での左右確認回数と確認の深さと長さ)などを調べた(確認行動の生起時間や確認方法を計測し確認得点として算出)。

自転車乗用中は歩行中より安全確認が不足する

免許の有無による高齢者の交通行動の特徴を明らかにするために、すべての測定箇所を集約し、自転車条件と歩行条件の確認得点を比較。どちらの条件においても、免許保有者のほうが非保有者より得点が高かった(グラフ1)。参加者の走行状況はビデオカメラでも撮影して

おり、左右確認回数を解析したところ、免許保有者のほうが非保有者の約2・3倍の確認行動をしているという結果となった(グラフ2)。「免許保有者は非保有者に比べ、安全行動の水準が高いことが明らかになりました。また、保有者・非保有者ともに、自転車条件のほうが歩行条件より確認得点が低くなっていることから、自転車に乗っている時に安全確認が不足する傾向が示されたといえます。これは自転車が不安定な乗り物で、高齢者の方は特にバランスをとることに集中してしまうため、安全確認や一時停止などへの意識が希薄になるのではないかと考えています」と蓮花教授は分析する。



「自転車の走行実験でも、免許をお持ちでない方は信号のない交差点、特に見通しの悪い場所を左右確認しないまま横断するという特徴が見られました。こう



帝塚山大学心理学部の蓮花一己教授

した行動を改善するための指導が必要だといえるでしょう。さらに、同じ高齢者でも免許保有者で一定の運転経験を有するリーダーが非保有者を指導するサポート体制も重要であると考えています」と蓮花教授は指摘する。「免許非保有者へ指導する際に注意してほしいのは、抽象的な事故パターンに基づく教育パンフレットの使用があまり有効ではないということ。これは高齢者がパンフレットに掲載されている交通場面と、自分が生活している地域にある危険箇所とを結びつけるにいくからです。そのため、受講者が普段通行する交差点等における危険要因と安全な通行方法を具体的に示すことが効果的といえるでしょう」。

高齢者を自転車教育の指導者役に認定

高齢者を含む自転車利用者への教育を充実させるために、安全意識の高い高齢者の力を活用しているのが兵庫県加古川警察署である。同警察署は昨年11月、管内に住む4人を加古川シルバーサイクルマスターとして認定。シルバーサイクルマスターは、高齢者や子どもを対象にした交通安全教室(昨年11月から今年7月にかけて22回開催)で自転車教育にあたる。 「当警察署管内で発生した人身事故の約3割は自転車に関係したものです。取締りの強化もありますが、やはり教育が大切であると考え、中村信幸・

前交通官がこの制度を企画しました。同じ住民の目線からの啓発活動を期待しています」と加古川警察署の小國豊和・交通第一課長は話す。 シルバーサイクルマスターとして活動しているのは大西佐久央さん(73歳)、沼田一美さん(69歳)、吉田保さん(68歳)、小里文男さん(73歳)。4人は昨年9月に開催された兵庫県交通安全高齢者自転車大会にグループで出場し、準優勝という成績を収めた。4人は日頃はクルマを運転することが多いため、大会に出場するまで自転車に関してはあまり詳しくなかったそうだ。

大会への出場が自転車の指導に生きる

「大会に向けた練習を通じて、自転車が私たち高齢者にとってバランスのとりにくい乗り物であることを再認識しました。このような自転車の特性と守るべきルールをきちんと理解することができました。この時の経験が今、自転車の指導を行う上で役立っています」と小里さんは振り返る。

「指導している時は、自分の話が相手に理解されているか確認しながら進めるように心がけています。また、自分が指導する立場になったことで、より交通安全を意識するようになりました」と大西さんは気を引き締める。



加古川シルバーサイクルマスターの4人。左から、大西佐久央さん、沼田一美さん、吉田保さん、小里文男さん

「クルマを運転していて、高齢の方が危ない運転をしているのが気になっていました。そうした方々を少しでも減らしたいと思い、活動に協力しています」と吉田さんはいふ。

「歩行者の延長で自転車に乗っている方が多いように感じます。だから、右側通行や信号無視を平気でやってしまう。自転車はクルマの仲間であることを一人ひとりが意識すれば、自転車事故は減っていくはず。それを多くの方に理解してもらえよう、私たちが努力していきたい」と沼田さんは力強く語った。

4人が出場した高齢者自転車大会は兵庫県以外の多くの地域でも開催されている。こうした大会への出場は高齢者の安全意識を高めるきっかけとなる。そして、大会で好成績を収めた高齢者に指導者として活躍してもらうという加古川警察署のシルバーサイクルマスター制度は地域の中に交通安全のリーダーをつくる上で、たいへん有意義な取り組みといえるだろう。



加古川シルバーサイクルマスターは高齢者や子どもを対象にした交通安全教室で活躍



現場訪問 — 東京ガス(株)

50歳以上のベテランドライバーに 気づきを促す安全運転研修

東京ガス(株) (本社・東京港区)

「社内運転ライセンス制度」は「安全運転指導員制度」職場における添乗訓練」「本社主催の交通安全教育訓練」の4本の柱を基本として社員への交通安全教育に力を入れている。「本社主催の交通安全教育訓練」の一つとして、シニア安全運転研修がある。これは、50歳以上の社内運転ライセンス取得者を対象とした研修である。

この安全運転研修を実施している背景を同社人事部安全健康・福利室の及川博さんは次のように話す。

「社内運転ライセンス取得者約4500名のうち、50歳以上は約1800名になります。60歳で退職せずに再雇用されるケースも増えていることから、こうした年齢層への安全運転教育も必要だと考え、開始しました。研修は年間20回開催しており、希望すれば受講

できるようにしています」。

7月12日、シニア安全運転研修が交通安全センターレインボーで開催された。まず座学で、インストラクターが加齢による運転への影響や、年齢に見合った安全運転の必要性を受講者に説明。そして、トレーニングコースに出て、日常点検のポイント、正しい運転姿勢、クルマの死角を確認した後、実技が始まる。

最初は狭路走行。受講者はパイロンで囲まれた狭い場所、何度も降車してパイロンの位置を確認したり、切り返しをしながら縦列駐車と車庫入れを行う。

昼食をはさんで、午後からは反応制動やパイロンスラローム。パイロンスラロームでは練習の後、「スタートからゴールまでの基準タイムは15秒です」とインストラクターが各自の走行タイムを測る。計測が終わると、「皆さん、スタートする時にきちんと

右後方の安全を確認しましたか? 時間を気にしなければいけない場面でも、冷静になって安全確認することをお忘れください」とインストラクターがアドバイスした。

最後は教室に戻り、動画KYT(危険予測トレーニング)



狭路での車庫入れ

※動画KYT=実際の交通状況を再現した動画を見ながら危険を予測し、結果を参加者同士が振り返って議論することで安全を学ぶ教育機器。詳しくは以下のホームページを参照。
http://www.honda.co.jp/safetyinfo/animation_kyt/



動画KYTを活用した演習



パイロンスラローム

ング)を活用した演習が行われ、シニア安全運転研修は終了した。研修を視察した及川さんは、「この研修は訓練ではなく、本人の気づきを促す機会と位置づけています。こうした体験をすることで、若い頃との感覚や能力の変化に気づいてもらえるはず。そうした変化を自覚することが事故防止につながると思います」と語った。

NEWS REVIEW

1 「2013モトパラダイス関東」で ライディングレッスンを開催

7・9月は「バイク月間」で、期間中は二輪車関連団体が二輪車の交通安全啓発や有用性を訴求するイベントを展開している。その一環として、7月6、7日の両日、苗場スキー場(新潟県湯沢町)で「2013モトパラダイス関東」が実施された(主催・関東二輪車協会)。20回目を迎えた今回は2日間で1000名近いライダーが参加した。



「柏秀樹のライディングレッスン」には2日間で32名のライダーが受講



発進・停止の練習で受講者に正確な運転操作を身につけてもらう

会場では集まったライダーに安全運転技術を身につけてもらうためのイベントとして、「柏秀樹のライディングレッスン」が開催された。講師はバイク雑誌などで活躍しているモータージャーナリストの柏秀樹さん。今回は、歩く速さでバイクをスムーズにUターンさせることが目標だ。「これはベテランの方でも上手くできない人がいます」と柏さんはいう。「今のバイクは、平らな場所ではアイドリングの状態でもクラッチをつなげば進んでいきます。多くのライダーはUターンの時にクラッチを切ったりつないだりしますが、初心者にはこの操作が転倒の原因になります。だから、歩く程度の速さになったところでクラッチを固定したまま、その状態でUターンすればいい。途中でクラッチ操作を加えるからエンストするリスクが高まるのです」。

前半は、ゆっくりとクラッチをつないでバイクを発進させ、アクセルを徐々に開けていくという練習を繰り返す。「正確な運転操作を身につけてもらうことがねらいです。アイドリング回転でクラッチをつながらを感じることも、まっすぐ、フワフワかないように発進・停止ができるようになることがポイントです」と柏さん。

後半は歩く速さでのUターンを練習。受講者には両足を出した状態で取り組んでもらう。「最初からステップに足をのせてやると、緊張して身体が硬くなります。両足を出せば、リラックスしてクラッチ操作に集中できるのです」。そして、柏さんは受講者の練習を観察しながら、一人ひとりにアドバイスした。

愛車のホンダCBR250Rで神奈川県から参加した大江将悟さんは「バイクに乗って始めて1年ほどになりますが、低速になった場面での操作が難しいと感じていました。低速でバイクを安定して扱うためのコツを知りたいと思います。このレッスンに申し込んだというわけです。アクセルやブレーキ、クラッチをゆっくりと確実に操作するというのが運転の基本であることを理解できました」と感想を話した。



Uターンの練習では柏さんが一人ひとりのレベルに合わせてアドバイス

2 全国47都道府県の代表が二輪車の安全運転技能を競う

8月3、4日の両日、鈴鹿サーキット交通安全センター(三重県鈴鹿市)にて「第46回二輪車安全運転全国大会」が開催された(主催・二財)全日本交通安全協会。二輪車安全運転推進委員会。同大会は、二輪車安全運転技能と交通マナーの向上を図ることに、昭和43年から毎年開催されている。競技は、法規履行走行と技能走行。女性クラス(50cc)、高校生等クラス(50cc)、一般Aクラス(400cc)、一般Bクラス(1100cc)の4クラスに分かれて、全国47都道府県の代表選手185名が各クラスの個人賞と各クラスの得点を合計した総合得点で団体賞を競う。



大会2日目には、記念式典が国際レーシングコースにて開催され、出場選手全員によるパレードが行われた。大会成績は、団体優勝が京都府、2位・神奈川県、3位・東京都。個人賞は、女性クラス・橋口雅美さん(京都府)、高校生等クラス・岩崎雅史さん(滋賀県)、一般Aクラス・小倉剛さん(神奈川県)、一般Bクラス・橋本広昌さん(兵庫県)が優勝した。

女性クラスで優勝した橋口さんは「京都府の初優勝を実現できて、本当に嬉しいです。極度の緊張から体調を崩してしまいましたが、最後まで走りきれて良かった」と喜びを語った。

教育最前線

連載 30

宅配ピザチェーンを展開する(株)ドミノ・ピザジャパン(本社・東京都千代田区)は、「スマートドライビング宣言」を行い、それに基づいて社内安全運転教育の実施体制を整備している。「スマートドライビング」とはデリバリー(配達)のプロとして、「人」「地域」「環境」「車両」「ピザ」「自分」のすべてにやさしい運転を実践することだ。

同社では今年4月に「Mammoth(マンモス)」という社内教育システムを構築。これは全国264店舗に勤務している約5000名のアルバイトが、タブレット端末などを使って都合の良い時間に業務に必要な知識を学んでもらうためのものである。このシステムには、配達業務を担当するデリバリークルーのための安全



ドミノ・ピザでは八丁堀店をはじめ、各店舗でHondaのKYT教材を活用し、アルバイトへの安全運転教育を実施

●(株)ドミノ・ピザジャパン 配達業務を担うアルバイトへの安全運転教育にホンダの危険予測トレーニング教材を活用

このシステムには、配達業務を担当するデリバリークルーのための安全

測の考え方を浸透させ、安全運転の引き出しを増やしてもらうことがねらいです。

そして、6月からシステム上での運用がスタート。ドミノ・ピザ八丁堀店(東京都中央区)ではストアマネージャーの門間一亀さんが業務の空き時間などを活用し、同店のアルバイトにKYTを実施している。「デリバリークルーには常に『一歩先を考えた運転』をするように伝えていきます。それを意識づける上で、このKYTのコンテンツは効果的です。配達業務をしないアルバイトにも参加してもらうなど、店舗全体での安全意識を高める上でも役立っています。様々な交通参加者の視点を学んでもらうために、二輪車に限らず、四輪車や自転車、歩行者のケーススタディも使用しています。」と門間さんはいう。



各店舗にあるタブレット端末を使って手軽にKYTができる

運転教育のコンテンツも用意されている。このコンテンツの1つにホンダの危険予測トレーニング(KYT)教材(一面参照)を同社は採用した。

採用した背景を同社Domino's University課長の小原健一さんは次のように話す。「ホンダのホームページにある『道路のキケン、発見!』というコンテンツは、気軽に簡単にKYTができるというたいへん有効なものです。これを当社の安全運転教育に活かさないかと考えました。そのコンテンツがDVDとしてまとめられたタイミングで、採用することにしたわけです。デリバリークルーに危険予

※ <http://www.honda.co.jp/safetyinfo/kyt/training/>

TOPICS 1 親子交通安全教室 事故の怖さを伝えるとともに、交通安全の大切さを学んでもらう

子どもを交通事故の危険から守るためには、親子が一緒に交通安全を学ぶことが重要である。そこで、子どもの夏休みが始まる時期に合わせて、HondaおよびHonda関連企業は親子交通安全教室を全国各地で展開した。この親子交通安全教室は、全国各地にあるHonda関連企業の周辺に住む親子を対象としており、子供には事故の怖さ、保護者には自らが事故を防ぐ知識と子供の行動特性を理解していただき、双方に「交通ルールを守る大切さ、命の大切さ」を学ぶ機会を提供することを目的としている。

各会場では、Hondaパートナーシップインストラクターが飛び出し事故や左折巻き込み事故の再現、シートベルトの効果を理解してもらうための実験などを行った(詳しくは以下を参照)。



●第1回行田地区親子交通安全教室

主催・開催場所: (株)ショーワ埼玉工場 (埼玉県行田市)

開催日: 7月21日
参加人数: 親子71名

子どもたちに「飛び出しの危険性」を参加体験とダミー人形を併用し再現、正しい道路での渡り方をアドバイス



●第2回浜松地区親子交通安全教室

主催: (株)エフ・シー・シー、さつき会労務安全環境委員会、本田技研工業(株)安全運転普及本部浜松普及ブロック

開催日: 7月21日
開催場所: (株)エフ・シー・シー細江工場 (静岡県浜松市)

参加人数: 親子98名

ダミー人形を使い急停止した状況を再現し、シートベルトの効果を確認してもらう



●第5回鈴鹿地区親子交通安全教室

主催: (株)ホンダロジスティクス、本田技研工業(株)安全運転普及本部鈴鹿普及ブロック

開催日: 7月21日
開催場所: 本田技研工業(株)鈴鹿物流センター(三重県鈴鹿市)

参加人数: 親子206名

自転車の安全な乗り方教室では子どもたちに交差点での安全確認について指導



●第2回南会津地区親子交通安全教室

主催・開催場所: (株)飯野製作所田島工場 (福島県南会津町)

開催日: 7月6日
参加人数: 親子54名

Hondaパートナーシップインストラクターが「あやとりいひよこ編」(7面参照)を使って指導



●第5回人吉地区親子交通安全教室

主催: 九州武蔵精密(株)、(株)東京理化熊本工場、ウエムラテック、サガラテック

開催日: 7月6日
開催場所: 九州武蔵精密(株)(熊本県錦町)

参加人数: 親子110名

トラックによる左折巻き込み事故を再現し、クルマの内輪差についてわかりやすく説明



●第2回狭山地区親子交通安全教室

主催・開催場所: (株)ケーヒン狭山工場 (埼玉県狭山市)

開催日: 7月14日
参加人数: 親子63名

保護者には子どもを事故から守るために、「いきいき運転講座」の映像を活用し一時停止の重要性を指導



交通安全教室には三重西小学校子どもを守る安全パトロール隊の隊員や学校関係者など約50名が参加

●三重県四日市市 2 チャイルドビジョンを活用した子どもを守る交通安全教室

7月5日、四日市市立三重西小学校で、チャイルドビジョンを活用した子どもを守る交通安全教室が開催された。同教室は子どもたちの登下校時の見守りや、安全指導などを行っている地域のボランティア「三重西小学校子どもを守る安全パトロール隊」と四日市市教育委員会が子どもの行動についてより理解することを目的に企画したもので、Hondaがこれに協力。本田技研工業(株)安全運転普及本部の佛崎さくら

が子どもの行動特性を説明した後、チャイルドビジョン(幼児視界体験メガネ)を使って、大人と子どもの物の見え方の違いを参加者に体験してもらった。



チャイルドビジョンをかけて、視界の狭さや周囲の見づらさを体験

STREAM

交通安全教育の潮流

全国に広がるHondaの高校生交通安全教育活動 連載:第2回

他者への思いやりが安全運転には必要であることに気づいてもらう

ホンダでは現在、高校生交通安全教育活動を全国で展開している。前号(6・7月号)では自転車教育を取り上げたが、今回は原付通学者への安全運転教育を紹介する。バイクは高校生にとって利便性の高いモビリティの1つで、通学に利用している生徒もいる。そのため、こうした生徒たちにはバイクにきちんと乗せて、適切な教育を行う必要がある。ホンダが展開している教育は単に運転技術を学ぶのではなく、なぜ危険なのか、その危険を回避するためにはどのように運転すべきか、生徒自らが気づきながら習得するとともに、人に迷惑をかけるないようにする道徳心を育むものである。

事故を未然に防ぐための日常点検

兵庫県立西宮香風高等学校(兵庫県西宮市)は、1日4時間の授業が1部(午

前)・2部(午後)・3部(夜間)の3部で開講している多部制単位制高校である。5月23日、同校の2部および3部で通学に原付を利用している生徒を対象にホンダの高校生交通安全教育が実施された。同校の定金浩一校長は実施の背景を次のように話す。「当校では、職場での勤務を終えてから登校する生徒もいるため、バイクでの通学を許可しています。近年、数は少ないものの事故が起きており、生徒に安全運転教育をきちんとやっていかねばならないと考えていました。そうした時に、ホンダの交通安全教育のことを知り、取り入れたというわけです。交通安全教育を通じて、生徒には命の大切さについて再認識してほしいと思っています」。

安全に走行するためには正しい運転姿勢が重要

クーターが「走る・曲がる・止まる」の3つ中で最も重要なのは何だと思いますか?」と問うと、生徒たちから「止まる」と声が上がる。「では、安全に止まるためには、走り出す前に何を点検する必要がありますでしょうか?」「ブレーキ」「タイヤ」と生徒たちが答えていく。「それだけでは不十分です。灯火と燃料も確認しておく必要があります。もし、ブレーキランプが点灯しなければ、後方から追突されてしまうことがあります。また燃料の残量が少ないと、それが気になり、不必要な脇見をして、事故を起こす危険があります。『燃料が少ないかな?』と思ったら早めに給油しましょう」とインストラクターが説明し、事故防止の観点から日常点検が重要であることを生徒に理解してもらった。そして、生徒は各自で自分のバイクを点検した。

他車の動きを観て相手のことを考える

最後は8の字走行。各々が単独で走るのはなく、1台ずつ順々に8の字コース内に入り、全員で走行する。バイクが交差する時は、アイコンタクトや手の合図を使って、お互いがスムーズに通過できるように工夫してもらおう。他車の動きをよく観るとともに、思いやりをもって譲り合うこと大切さを生徒たちに気づいてもらおうねらいがある。「今日は、お互いに知り合い同士だからやりやすい面もあったと思います。しかし、実際の道路では知らない人ばかりです。こちらが優先道路を走っていても、必ずしも相手が止まってくれたり、譲ってくれるわけではありません。少しでも『危ない』と感じたら、徐行したり、止まってください。自分のことだけでなく、相手のことを考えることが安全運転には重要なのです」とインストラクターが締めくくり、この日の交通安全教育は終了した。



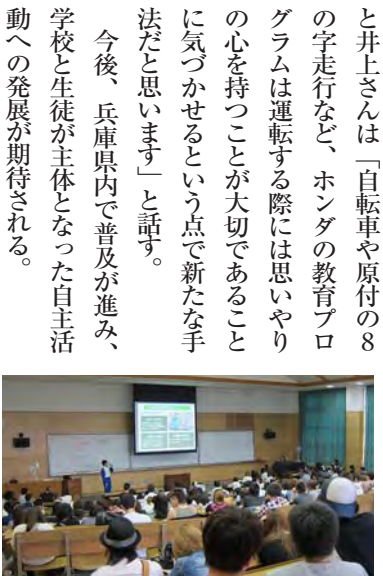
コース内の他車の動きに注意しながら8の字走行を行う

8の字走行の途中では、インストラクターが8の字の交差する部分の道幅を変更。交差する際は、道幅の広いほうを走るバイクに道を譲る。道幅が同じになっている場合は、左側から来るバイクを優先させる

兵庫県の高校で広がるホンダの交通安全教育

兵庫県の高校では今年4月から7月にかけて、約20の高校でホンダによる自転車と原付に関する交通安全教育が実施された。兵庫県企画県民部県民文化局地域安全課交通安全室の高延真一課長補佐は「これまで交通安全教育については各高校が独自で取り組みを行ってきました。今年度は、教育委員会を通じて、ホンダの教育を紹介しました。県全体で展開してもらえるのは、たいへんありがたい。実施した高校ではいずれも好評なので、さらに拡げたいと考えています」と評価する。兵庫県内の指導においては、ホンダのインストラクターだけでなく、県民文化局交通安全室の前田義之さんと井上清徳さんも協力している。前田さんと井上さんは「自転車や原付の8の字走行など、ホンダの教育プログラムは運転する際には思いやりの心を持つことが大切であることに気づかせるという点で新たな手法だと思っています」と話す。

今後、兵庫県内で普及が進み、学校と生徒が主体となった自主活動への発展が期待される。



5月22日にはHondaのインストラクターが西宮香風高等学校の全校生徒を対象に自転車教育(座学)を行った



インストラクターが正しい運転姿勢を説明



ブレーキ、タイヤ、灯火、燃料について生徒が各自のバイクを点検

膝や足のつま先が車体からはみ出していると低速でのバランスがとりにくいことを実感してもらう



低速バランスの練習を繰り返し、スタートからゴールまで全員がピタリそろって走行

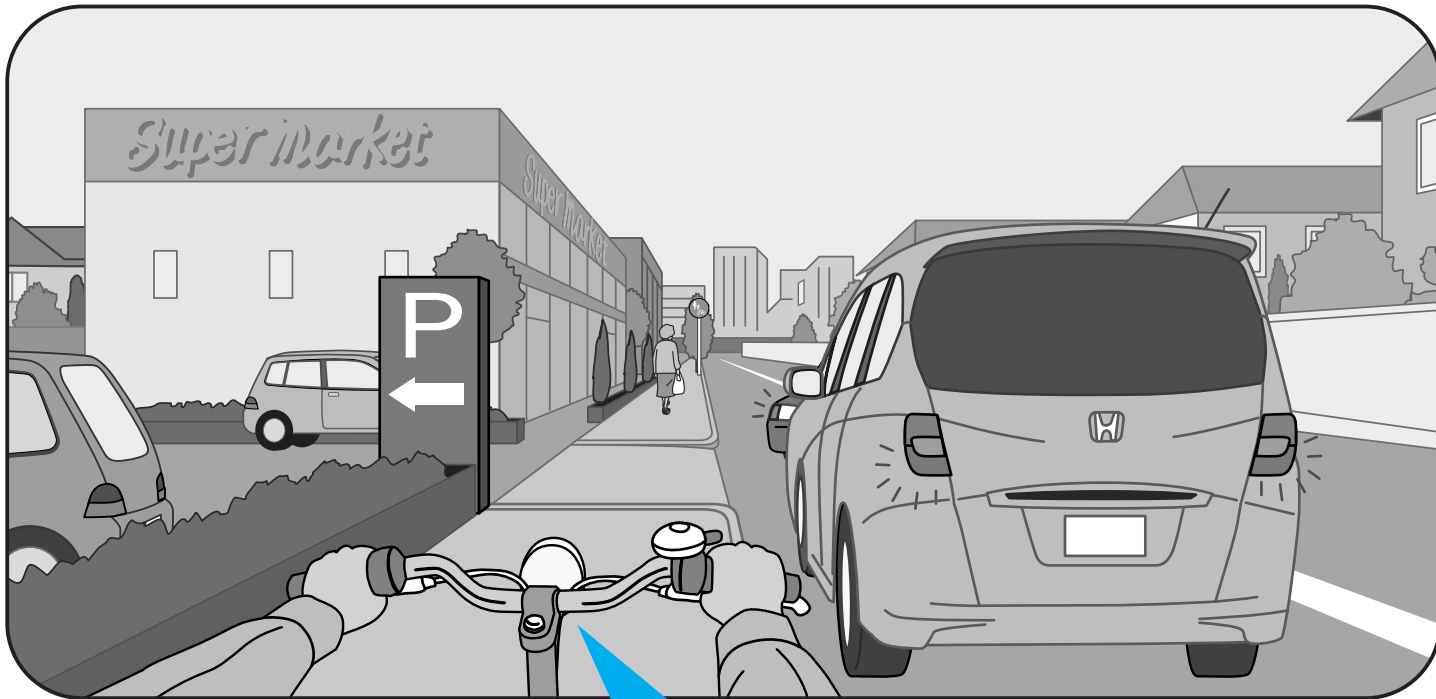
次の課題はスタートからゴールまで低速で走行し、受講者全員がそろって同時に到着するというもの。初めのうちはなかなかそろわない。どうすれば全員そろるか、生徒同士で話し合う。その結果、低速走行が苦手な生徒のペースに他の生徒が合わせて走行。数回繰り返すと、スタートからゴールまで全員がピタリそろって走行することができた。「道路には運転が上手な人もいれば、そうでない人もいます。まわりをよく観て、運転が上手くないと思う人がいれ

ば、その人に合わせた運転をすることで、思わぬ事故を防ぐことができるのです」とインストラクターが強調した。

危険予測トレーニング(KYT) — 危険感受性を育てる

第34回 駐車場の出入口を通過する時(自転車編)

交通事故を防止するためには、路上で出会うさまざまな危険を予測することが大切です。このコーナーでは危険感受性を高めるための題材を提供します。今回は自転車利用者に、クルマの往来がある場所を通過する時の危険について考えてもらうためのKYTです。



活用方法

- ① 少人数のグループをつくります。
- ② 「交通場面のイラスト」を見せながら、意見を出し合います。
- ③ その後、「解答・解説※」を参考にして、どんなことに気をつけて運転すれば良いか再び話し合ってください。

※「解答・解説」と「交通場面のイラスト(カラー・A4版)」は下記SJホームページでご覧いただけます。またPDFファイルもダウンロード(無料)できます。

ホンダ SJ

検索

【使用上の注意】

- 営利目的での利用はおやめください。
- 内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください。
- その他、使用に関するご質問はお問い合わせください。

本田技研工業(株) 安全運転普及本部
TEL: 03 (5412) 1736
E-mail: sj-mail@spirit.honda.co.jp

あなたは自転車通行可の歩道を走っています。スーパーの駐車場の出入口の手前で右側にあるクルマが停車しました。

このような時、どんなことに気をつければ良いか考えてみましょう。

©本田技研工業(株)

指導者ファイル 15

このコーナーでは、地域で活躍する交通安全教育に携わる指導者の方々を紹介していきます。



高松市交通安全指導員の皆さん
写真左から、森美香さん、我部山裕子さん、七條美里さん、船城三知代さん、平松美晴さん

「あやとりい」を活用して、幼児にわかりやすく指導

高松市は香川県の県庁所在地で、約42万人が暮らす都市である。同市では幼児から高齢者を対象にした交通安全教室等を年間424回(平成24年度)実施している。さらに毎年ゴールデンウィーク期間中には「高松春のまつり フラワーフェスティバル&交通安全フェア」を開催し、市民への交通安全啓発を行っている。こうした活動を支えているのが、高松市地域政策課交通安全対策室に所属する交通安全指導員の皆さんだ。

「幼児を対象にした交通安全教室では1つのことに時間をかけずに、いろいろな教材やツールを使って、子どもたちの集中力が途切れないようにしています。そのための教材の1つとして、Hondaの交通安全教育プログラム『あやとりい ひよこ編』もたいへん役立っています」と指導員の平松美晴さんは話す。森美香さんは「ワークシート(交通場面のイラスト)の中で、男の子や女の子のイラストを自由に動かすことができるので、子どもたちにわかりやすい説明ができます」と「あやとりい」の特長を挙げる。

また、高松市内で開催される交通安全イベントでは指導員の皆さんが寸劇を来場者に披露している。脚本を手がけているのは七條美里さん。

昨年、企画した「信号シスターズ」は好評だったようだ。「寸劇を観ている方々に、自分の運転や交通マナーについて振り返っていただけるよう、ストーリーを工夫しています。交通安全は人ごとではなく、自分自身にかかわることに気づいてほしい」と七條さんはいう。

※あやとりい= Hondaが鈴鹿市と協力して開発した交通安全教育プログラム。4~5歳児対象の「あやとりい ひよこ編」、小学3~4年生対象の「あやとりい」、幼児~小学校高学年対象の「あやとりい 自転車教室」、高齢の歩行者・自転車利用者対象の「あやとりい 長寿編」がある。あやとりいは「あんぜんを やさしく とぎあかし りかいして いただく」の略。詳細は以下ホームページを参照。
<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/kyt/ayatorii/>

指導者の皆さんの活動を動画でご紹介

<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/area/movie/>

★幼稚園・保育所で実施している 幼児向けの交通安全教室



「あやとりい ひよこ編」を活用して、道路のどこを歩くべきか子どもたちに考えてもらう



パンダに扮した交通安全指導員が横断歩道の渡り方を指導



子どもたちに学んだことを実践してもらおう

最後に覚えやすいフレーズを使って、子どもたちに守ってほしいことを印象づける



★オリジナルの寸劇「信号シスターズ」

「信号シスターズ」は街を行きかうクルマや自転車、歩行者を見続けている信号機が主人公。信号機の中から青信号のアイ、赤信号のアカネ、黄信号のキーコの3姉妹がマナーの悪さを指摘しながら安全行動を啓発するというストーリー



SJクイズ ?

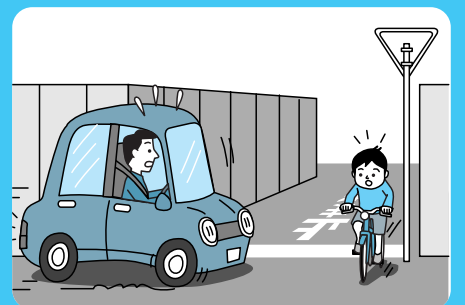
Q1 平成24年の自転車関連事故※件数は13万2048件で、このうち相手が歩行者の事故件数は2625件です。これは10年前(平成14年)の何倍でしょう?

※自転車が第1当事者または第2当事者となった交通事故

- ①約0.7倍 ②約1.0倍
③約1.3倍 ④約1.8倍

Q2 平成24年の自転車乗用中(第1・2当事者)の死傷者数を法令違反別・年齢層別にみると、子ども(15歳以下)は「違反あり」が何%を占めているでしょう?

- ①約55% ②約60%
③約65% ④約70%



Q3 平成24年の子ども(15歳以下)の自転車乗用中(第1・2当事者)の死傷者数を法令違反別にみると、最も多い違反は次のうちどれでしょう?

- ①安全不確認 ②一時不停止
③交差点安全進行義務違反 ④動静不注視

※「解答」は8面下。「解説」は下記SJホームページでご覧いただけます。<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/sj/>

©本田技研工業(株)



雨天時に自転車利用者はどのような運転をしているか？



Q1

雨天時に走行していた自転車利用者467人中、傘さし運転をしていたのは何%だったのでしょうか？

A1 実際の観察から

★Q1の回答

傘さし運転をしていた自転車利用者は467人中231人(49.5%)

観察場所を通過した自転車利用者は467人でこのうち、約半数にあたる231人が傘さし運転をしていた。傘さし運転の自転車利用者の約8割は成人(19～64歳)と高齢者(65歳以上)であり、透明のビニール傘や小型の折り畳み傘を使用。傘を前に傾げる人、傘を持ち垂直に掲げる人、肩に掛ける人など、さし方は様々だった。傘を持つ手は右手が160人、左手が71人であった。

レインウェア(カッパ)を着用していた自転車利用者は46人であり、こちらも8割近くが成人と高齢者だった。子どもや中学生・高校生は雨に濡れたまま走っているケースが多かった。傘をさしていない自転車利用者は目的地に急ぐため、スピードを出したり、赤信号を無視する傾向が見られた。

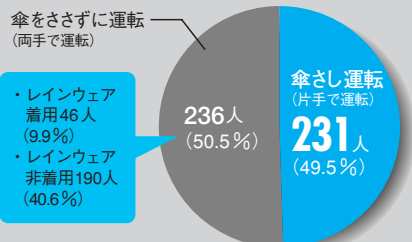


レインウェア(カッパ)を着用している自転車利用者

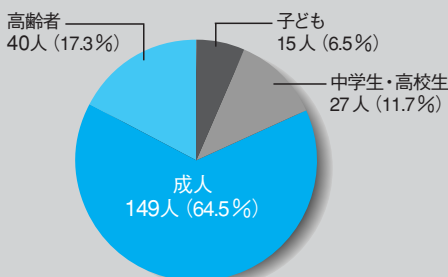


雨が顔に当たらないように傘を前に傾けてさす自転車利用者

●自転車利用車の傘さし運転状況(467人中)



●傘さし運転の自転車利用者の年齢層(231人中)



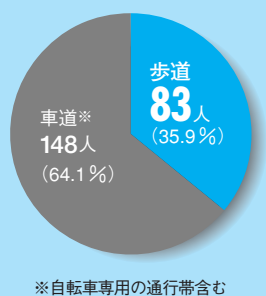
※子ども(13歳未満)、中学生・高校生(13～18歳)、成人(19～64歳)、高齢者(65歳以上)の判断は観察者の判断による



Q2

傘さし運転をしていた231人のうち歩道(自転車通行可)を走行していたのは何%だったのでしょうか？

●傘さし運転の自転車利用者の走行位置(231人中)



※自転車専用の通行帯含む

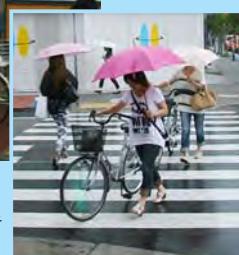


二人乗りをしながら傘さし運転をする若者



横断歩道で押し歩かす自転車利用者

歩道上ですれ違う傘さし運転の自転車



★Q2の回答
歩道を走行していたのは231人中83人(35.9%)

A2 実際の観察から

Why 傘さし運転は安全運転義務に違反

自転車第1当事者または第2当事者となった交通事故件数は減少しているものの、交通事故全体に占める割合は漸増傾向にあり、平成24年は約2割となっている。また、自転車加害者となった場合、運転者に対して高額な賠償命令が出されることもある。

自転車は雨の日でも利用する人が多い。雨天の際、歩く時は傘をさすが、自転車の場合はどうだろうか？自転車乗用中に傘をさす(傘さし運転)ということは、片手で傘を持ちながら運転するわけだから当然、片手運転となる。片手運転では、自転車のハンドルやブレーキを確実に操作することができなくなり、道路交通法



第70条「安全運転の義務」に違反することになる。そこで今回は雨天時に走行する自転車の運転について観察した。

観察場所は東京都江戸川区内の信号のある交差点(T字路)付近。車道は片側1車線で、両側に自転車通行可の歩道が整備されている。近くにはスーパーなどの店舗もあり、買い物にやってくる女性を中心に子ども、中学生、高齢者まで幅広い年齢層の自転車利用者が往来していた。

Advice

片手運転は危険！両手でハンドルとブレーキの操作を

この日の天候は日が曇りで、夕方か



横断歩道で歩行者と接触しそうな自転車

ら雨となった。雨が降り始めて10分後の17時から観察を開始。1時間に観察場所を通過した自転車利用者は467人と、雨にもかかわらず多くの自転車が走行していた。

傘さし運転の自転車は全体的にゆっくり走っている傾向だったが、信号が赤から青に変わって発進する時など、こぎ出してからしばらくフラつく自転車が目立った。さらに曲がり角では、大回りになってしまいうで、ぎこちない運転の自転車も見られた。傘を前に傾けてさしている自転車利用者は前方が見にくいため、歩行者と接触しそうな場面もあった。傘さし運転は、傘で視界がささげられたり、傘が風にあおられたりして危険である。さらに片手運転となり、ブレーキをかける際、前・後輪どちらかのブレーキしか使えない。そのため、両手でブレーキをかけるのに比べ不安定で、制動距離も長くなる。これでは歩行者やクルマが目の前に飛び出してきた時など、安全に停止することができない。特に、左手

で傘を持つ場合は、前輪のブレーキしかかけられないため、濡れた路面では急ブレーキをかけた際に転倒することもある。雨天時に雨をしのぐのであれば、傘をさすのではなく、レインウェアを着用してほしい。前方の視界を確保し、両手でハンドルとブレーキを操作することが周囲はもちろん、自分にとっても安全である。